

6月議会補正予算

中央駅前広場のフラット化

永年の提案が実現

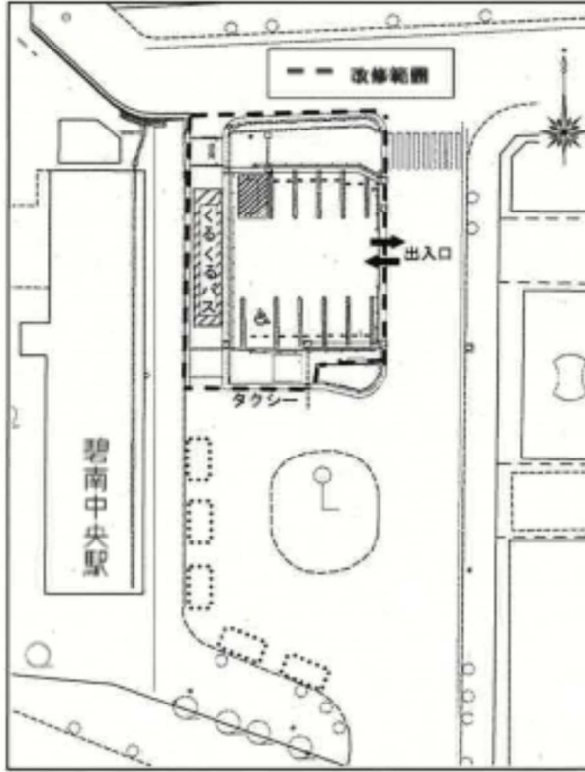
6月補正予算では、18歳までの通院費無料化などいくつかの住民要求が実現しています。中央駅のフラット化は、広場中央の噴水が故障し、撤去して9台分の駐車場をつくるものです。中央駅は朝夕のラッシュ時に送迎車が溢れます。また臨海部の企業送迎バスが車道に長時間駐車しています。ツアー観光のバスの集合場所にもなっています。現在は利用不可能です。日本共産党は今まで、噴水周りの植樹の根がコンクリートの囲いを爆裂。椅子の老朽化など対策を求めてきました。広場全体をフラット化し、有効利用を求めてきました。

企業送迎車対策はならず

今回の改修は、彫刻の移動はしないので、企業送迎車も観光バスの待機場所はできません。さらに、設計を精査し広場の有効利用と改善が必要です。

くるくるバス1時間毎ならず

公共交通計画 2024(2028年)の1年目。くるくるバスの利用促進事業としながら1186万円は、増便・拡充はなし。計画策定のアンケートでは、60歳以上34.6%・2%のダントツトップで 無料のまま本数



【計画平面図】

などサービス水準を上げる」と求めています。また59.4%が「市全体905人のうち」増便や運行時間の延長を求めているのに、市は耳をかきません。今回の補正予算では、あまり市民要求のなかった店舗へのバス停乗り込みを9カ所 ①バロー大浜②バロー笹山③ドミール大浜④ドミール千福⑤ピアゴ⑥アオキ⑦ゲンキ金山⑧生田⑨かねやす)の店舗に交渉。一度は断られていたが交渉するとしています。また医師会に働きかけて医療機関を音声を紹介するとしています。市民や利用者が求めている1時間毎のくるくるバスや、電気車、低床車、バス停の設置はありません。

バス購入は、今年度無理?

2024年度予算計上したパープルとオレンジのバス購入は、入札も納車もメドがたつていません。公共交通計画では令和8年度から2台の電気車を導入する計画です。令和7年度にオレンジ・パープルバスの買い替えを先送りしエコで降りしやすいくるくるバスにすべくです。市民の声を聞かない前瀬田

2024年6月補正予算の市民要求

項目	金額	内容
1 名鉄中央駅前広場のフラット化で送迎用駐車場9台分設置	3500万円	2024年度中に完成
2 あおいパーク、男性浴場天井改修	790万円	設計費2025年度工事
3 くるくるバス利用促進事業	1186万円	9店舗内に停留場。音声、停留所、路線図改正。2024年度内。
4 名鉄北新川駅周辺整備事業	1397万円	県道西端線アンダーパス整備に向け5交差点の調査
5 18歳までの通院費無料化	2239万円	10月から実施。12月～4カ月分の医療費支払い額は1732万円

市政の負の遺産」がくるくるバス改善にも結びついていきます。

あおいパーク改修は天井だけか?

前瀬田市長がやり残したあおいパークの改修は、天井の水漏れを直すために790万円の設計費、来年度工事とされています。日本共産党は、炭酸泉の導入など新たな魅力づくりを提案してきました。ぜひ組み込んでいただきたいものです。

北新川駅周辺開発

県道西端線のアンダーパス化が決まり、線路の高架計画は消えました。6月補正では、駅前ロータリーの無い北新川駅、一方通行の線路横断踏切などの課題を解消するために道路交差点5カ所の調査を行い将来の、交通ネットワークの計画へと進めます。

問われる

小池新市長の手腕

6月28日最終日の6月議会では、市長選挙後、初の定例議会で小池市政のカラーが打ち出されました。18歳までの通院費無料化の10月実施の決断は評価されています。

しかし給食費無料化、带状疱疹ワクチン補助は実施時期を示すことができませんでした。また石炭火力発電廃止、アンモニア混焼には、無批判に国県に同調する姿勢にとどまりました。

今後の気候危機打開、二酸化炭素削減の行政責任を果たすごみ焼却場問題も公設新規建替えを言えませぬ。

くるくるバス増便拡充も 市民との対話」を掲げるなら、小学区ごとの話し合いで1時間毎を推進すべきです。今後の小池市長の手腕を1万4千人の「小池票」を投じた市民は注目しています。

2号地多目的グラウンド代替地＝中電の産業廃棄物焼却場予定地か？ 小池市長、中電追隨でごみ行政に責任もてますか？



これは、日本共産党が、ごみ焼却場問題で情報公開を行い取得した、2023年3月30日関係課の打合せ資料。つづく同年4月14日の二役協議資料です。
計画どおりに、山下町のグラウンド化を進めていることがわかります。

2024年6月	方針決定↓山下地区
2025年3月	施設の基本設計 山下地区購入完了)
2026年3月	設計完了
2026年4月	グラウンド工事着工
2027年3月	環境影響評価完了
2027年	用地確保完了↓グラウンドなし
2027年4月	建設工事開始
2028年4月	グラウンド供用開始
2031年4月	供用開始

期間 1年程度

山下町の農地7haをグラウンドに

6月21日の経済建設部会で、山下地区の土地利用について」の議案が論議されました。

この地域は、井戸で田畑の水確保し、枯渇しているとしています。農家の後継者不足や、営農意欲の減退があるといえ、あまりに過ぎた市の計画のままです。

山下町農地は2〜3億円

情報公開の資料には、山下町の農地は、 $m^2 \times 3千円 \times 7 \sim 8 ha \parallel 2 \sim 3億円$ と試算されています。
2号地多目的グラウンドは、4haで12〜13億円としています。
昨年の段階で買取要望の同意者は38%。同意面積50%としていました。
ところが今回示されたのは、2023年5月に地権者代表者のアンケートで、農地57人、宅地9人の地権者のうちグラウンド等の整備に57人が同意し、宅地を除く8.08haが確保できるとしています。

油洲県営公園も

曳舟橋を渡った油洲沿いの平和町1丁目には県営公園の予定地になっており、市陸上競技協会からは、ここに陸上競技場の要求もあがっています。市民合意もなく「焼却場」のためのやり方はだめです。

山下地区概要

- パイプラインなし 井戸水枯渇
- 地権者から買取要望 同意者 38% 同意面積50%
- 地権者全同意で買取・農地単価適用で 約2〜3億円 (3,000円/m² × 7〜8ha)

2023. 3. 30付け「部外秘」と書かれた、情報公開文書より

碧南市の方針

- 中部電力の提案を検討する。検討期間は令和6年6月まで
- 検討にあたり中部電力と協定を締結
- 建設場所(約4haの土地)については2号地多目的グラウンド周辺(約5ha)を始めとする臨海部を中心に探る。
- 2号地多目的広場(スポーツ施設)の代替は、
 - 現CC衣浦と衛生センター(4.8ha)を優先候補地
 - 山下地区の農振地域(7ha)を第2候補地
 - CC衣浦等の跡地利用がグラウンド利用以外では困難
 - 山下地区全域の早期同意は困難(買取単価は「農地」を基本としたい)

<http://hekinan.jcpweb.net/>
日本共産党碧南市議員団のホームページをご覧ください。



大軍拡・増税許すな

へきなん 19行動

7月19日(金曜日)午前11時〜12時
ピアゴ碧南東店
碧南市東浦町6-17 (日進小学校南)

日本共産党碧南市議団



市議会議員
山口はるみ
☎42-8940
三度山町 2-70-4



市議会議員
磯貝明彦
☎48-2718
若松町 3-253